

富士重工業は、スバル販売特約店を除く国内関係会社のなかで、環境負荷の多い製造関係および輸送関係の6社^{*1}とともに「国内関連企業部会」を開催しています。2005年度は、環境リスクアセスメントと全社環境データ集計システムの展開を図りました。一方、2005年度は新たに非製造系関係会社のスバル興産株式会社^{*2}がISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得しました。

国内関連企業部会各社の活動概要

温暖化防止活動では、CO₂排出量は2005年度6社合計で28,170 ton-CO₂（前年度比 9.7%削減）となりました。廃棄物削減活動では、処理方法の見直しやきめ細かな分別活動の推進により、6社合計で埋立廃棄物のゼロレベルを達成しました。

環境会計^{*3}では2005年度6社合計の環境コストは2.7億円（前年度比20%減少）となり、経済効果は1.8億円（前年度比10%増加）となっています。

（株）イチタンでは、プレスなどの振動や騒音を発生する装置の防振対策や遮音対策に努めています。2006年2月、太田地区の環境部会（主催：太田地区産業環境保全連絡協議会）における騒音・振動部会を開催し、近隣の自治体・各社との意見交換や工場見学を実施しました。

富士ロビン（株）では、2005年11月、毎年恒例行事となっている黄瀬川河川敷の清掃作業を行うなど、各社で事業周辺の清掃作業や草刈りなどを定期的に

実施しております。



2006年2月開催した騒音・振動部会の様子（株）イチタン

環境関連法規制値超過・環境事故・苦情など

2005年度、環境関連法規制値超過は合計14件（水質関係6件、騒音関係8件）発生しました。水質関係では、工場排水（PHおよびSS）法規制値超過が合計6件発生しましたが、設備改善や排水処理施設運転管理の対策を図りました。騒音関係では工場敷地境界での規制値超過が合計8件発生しましたが、暫定的な騒音遮断対策と周波数分析にもとづく吸音、遮断対策の検討を行っております。

また環境関係の事故については、重油タンク配管からの油漏れなど合わせて2件発生しましたが、迅速かつ適切な応急対策と設備の改善などの恒久対策を行っております。

一方、環境関係の苦情は合計2件いただきました。ひとつは早朝のフォークリフトの運行に伴う騒音、もう一つは従業員駐車場で深夜のエンジン音が原因となる騒音に関する苦情でしたが納入時間帯の見直し、従業員への指導など改善対策を行いました。

輸送機工業株式会社の土壌・地下水調査結果につきまして

輸送機工業株式会社（愛知県半田市）では特定施設の廃止に伴い、土壌汚染対策法に基づく調査を2005年11月より2006年1月にかけて実施しました。その結果、同法の基準を超える土壌汚染が確認されたため、愛知県に届出し、同法に則った対応を行っています。土壌汚染^{*4}が確認された場所につきましては、掘削除去および原位置での洗浄措置を行うとともに地下水の調査を行っています。

Column

非製造系関係会社 スバル興産株式会社がISO14001を認証取得

不動産開発や旅行代理店業務、ビルの管理業務などを営む当社関係会社 スバル興産株式会社（社長 齋藤孝雄、新宿スバルビル、恵比寿スバルビル、大宮スバルビル）は、2006年3月、当社のスバル販売特約店を除く非製造系関係会社ではじめてISO14001環境マネジメントシステムの外部認証を取得しました。スバル興産（株）ではEMS構築にあたり5S活動推進による業務プロセスの改善を手法としながら、ビル管理業務として各テナントから排出される廃棄物の計量と再資源化、エネルギー使用量の見える化と管理による削減活動を進め、各テナントへタイムリーな情報展開を行うなどサービス面での取り組みの充実を図りながら、EMSを経営管理のツールと位置づけ改善活動を行ってきました。今後は、さらに充実した各種サービスを行うべくEMS活動に取り組んでまいります。



スバル興産（株）新宿本社の廃棄物回収場



廃棄物の計量システム（新宿本社）計量結果を自動で集計します



スバル興産（株）齋藤社長と各環境管理責任者



スバルビルニュース：隔月で定期的に発行しています（2006春号）

※1：製造・輸送関係の6社：富士ロビン（株）、輸送機工業（株）、富士機械（株）、（株）イチタン、桐生工業（株）、（株）スバルロジスティクス
 ※2：非製造系関係の4社：スバル興産（株）、スバルユーアイ（株）、スバルファイナンス（株）、スバルシステムサービス（株）
 ※3：国内関連企業部会6社の環境会計の詳細は、当社ホームページ2006環境・社会報告書別冊データ編に掲載しています。
 ※4：基準値の最大 38倍の鉛およびその化合物

関係会社における活動 - 海外関係会社 -

富士重工業では、北米の関係会社5社と環境にかかわる委員会組織（北米環境委員会^{*1}）を設置し、各社の環境保全活動の実施状況報告や今後の北米における環境取り組みについて議論するなど、取り組みを展開しています。2005年度は、アメリカにあるスバル車の研究拠点SRDが2005年12月ISO14001の認証を取得し、これで北米5社全社が、開発、製造、販売のすべての段階において環境マネジメントシステムを構築することになりました。

北米環境委員会

北米環境委員会は毎年2回（2月、8月）開催し、当社ならびに関係5社の環境中計に対する進捗状況および環境改善事例などの情報交換を行っています（写真1）。2005年度は、環境会計の試行導入と全社がすでに構築を完了している環境マネジメントシステムについてのさらなる合理的な進め方などについて意見交換を行いました。



写真1：2006年2月に開催した北米環境委員会でのスナッフ（鈴木副社長（当時）写真右）

各社の環境への取り組み

2005年の主な活動トピックス

- ・SRDがISO14001を認証取得し、北米環境委員会全社がEMSを構築しました（写真2）。
- ・SIAでは直接埋立廃棄物ゼロレベルを2004年5月より継続して達成中です。



写真2：ISO14001の認証取得したSRD 羽原社長（写真中央）、カーク氏（写真左）、折笠氏（写真右）

廃棄物削減活動

SIAは1998年にいち早くISO14001の認証を取得し、以来積極的に環境保全活動を推進してきました。特に、廃棄物の発生抑制、資源の循環的な利用、適正な処分を行うことで環境への負荷をできるだけ低減する取り組みを行い、2004年5月以降生産活動で発生する廃棄物の埋立量ゼロレベルを達成し、2005年度も継続して達成しています。（2005年廃棄物量：14,656tonに対し直接埋立量は0ton）

SOAでは、南部中央地域RDC^{*2}にて発生していた古いボディパネルなどを、地域のNPOと協力し障害者の雇用拡大を図りながら廃棄物の分別活動を推進しました。その結果、今まで埋立てにまわされていたアルミ屑、発泡スチロール梱包材がすべてリサイクルできるようになり、年間でおよそ4,800kg削減することができました。今後もNPOを積極的に活用しながら廃棄物の分別に取り組みます。また身近な取り組みとして、空缶や用紙のリサイクルにも積極的に取り組んでいます。



写真3：積極的に分別活動に取り組むSOAの社員

ます。（写真3）

RMIでは、汎用エンジン試験運転後エンジンから回収したガソリンを再生する装置が完成し廃棄物発生量の削減に努めています。（写真4）

SCIでは、ダンボール、用紙類、プラスチック、ガラス、危険物の再資源化に取り組んでいます。2005年度は、①エンジン・トランスミッション用の再利用返却可能な新型のコンテナを採用しました（写真5）、②埋立廃棄物用に使用していた圧縮機を紙とダンボールの圧縮用に転用し、紙類の再資源化を図ることで大幅に処理コストを削減することが可能となりました（写真6）、③倉庫では梱包材を木材とプラスチックに分別し、再利用する取り組みをはじめするなど（写真7）、全社をあげて廃棄物削減に取り組んでいます。

SRDでは、身近な取り組みとして、コーヒーメーカーで繰り返し活用できるマグカップを利用する取り組みを始めています。（写真8）

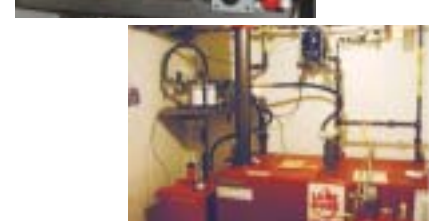


写真4：回収したガソリンを再生するシステム。2005年12月に完成。



写真5：再利用可能/返却可能なロングエンジンコンテナ



写真6：圧縮機(右)と廃棄物回収容器



写真7：梱包材の分別回収



写真8：マグカップを活用しています

*1：SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc.; SOA: Subaru of America, Inc.; RMI: Robin Manufacturing U.S.A, Inc.; SCI: Subaru Canada, Inc.; SRD: Subaru Research & Development, Inc.以上5社で構成されています。

*2：RDC (Regional Distribution Center)

省エネルギー活動

SOAでは2005年北西RDCにおいて倉庫内の270個のメタルハライドランプすべてを蛍光灯に交換しました(写真9)。この結果、年間約12,000ドルの電気代の削減ができ、温室効果ガスの排出量も削減することができました。新しい照明は以前のものに比べ目にやさしく働きやすいと従業員にも好評です。

SCIでは新本社ビルと部品配送センター内すべての会議室や化粧室に人感センサーを設置し照明などの消灯管理を行っています。また各職場にはより多くの自然光を採光できるよう窓を多く設置し、受け付けには天窓を設け(写真10)、職場の壁の高さも4フィートに設定しています。

RMIでは組み立てラインの自動消灯システムを追加し、シフト業務の終了時に



写真9: ランプ交換プロジェクト

は確実に消灯されるようにしています。



写真10: SCI本社: 自然光を採光した明るい社屋

環境リスク・化学物質の削減

SIAでは塗装段階での大気汚染物質を削減するために塗料の低溶剤タイプへの変更を行いました。今後は合理的な化学物質の含有調査と削減に向けて、電子MSDSシステムの導入を行う予定です。SOAでは身近な取り組みとして南部中央RDCにおいて使用済み電池類の回収ボックスを漏洩防止タイプに変更し、また環境に配慮した水洗式部品洗浄機を導入しました。(写真11)



写真11: 漏洩防止電池回収ボックス(左)と環境配慮形水洗式洗浄機(右)

グリーン調達活動

北米環境委員会各社では、グリーン調達に積極的に取り組んでいます。2005年度現在、取引先の81%がISO14001を認証取得済みであり、今後もEMS構築の取り組みを進めるとともに、化学物質の削減にも努めていきます。

EMS関係

SRDは2005年12月ISO14001を認証取得し、これで北米関係の5社すべてがEMSを構築しました。今後は、さらなる合理的なEMS活動の推進に向け、当社と各社で検討を進めています。また、SOAでは、新たに3拠点でISO14001を認証し、これでSOAの取得拠点は6ヶ所になりました。(写真12)



写真12: SOA南西地区RDC(デンバー)のスタッフISO取得記念

各社の社会貢献活動/受賞など

募金活動などを通じての支援 カトリナ被災地への支援

SIA、SOAでは、2005年8月にアメリカ南部を襲ったハリケーンカトリナの被災地域に対して義援金を寄付しました。また富士重工業も日本赤十字社を通じて義援金の寄付を行いました。被災地の皆さまの一刻も早い復興を願っております。

SOAでは、SOA基金を通じて野生動物の回復保全や環境教育業務でキャリア形成を志す大学生や大学院生向けに自然保護区で各分野の活動を援助するインターンシッププログラムへの資金援助を行っています。また、ニュージャージー州ニューリスポンのラドガース大学パインランド・フィールド・ステーションにスバルフォレスターを提供し、各環境保全教育プログラムで活用をいただいています。

RMIでは、ハドソン病院、ハドソンカウンティークラブ社会貢献活動への参加、ミネアポリス日本人学校などへ支援活動を継続して行いました。

地域清掃活動・慈善活動などへの積極的な参加

SOAでは、キング牧師記念日の奉仕活動の一環として、従業員が青年の家の美化活動に参加しました。(写真13)

RMIでは、脳腫瘍の子どもたちへの募金活動に従業員が積極的に参加しています。(写真14)

SCIでは、2005年地球デーに、ミシ

ソーガ市と協力して、事業所周辺の清掃活動に参加しました。また、SCIの関係会社であるSOMIも、ミシソーガ市のごみゼロプログラムに参加し、積極的な地域貢献活動を行っております。これらの活動に対し、ミシソーガ市長より感謝状をいただきました。(写真15)



写真13: 青年の家を美化



写真14: Dean Walkご夫妻 小児脳腫瘍財団募金活動



写真15: ミシソーガ市と協力で清掃活動



写真15: SOMIもミシソーガ市のプログラムに積極的に参加